

新機能 (2018年10月)

TREND-CORE VR (2018年10月) の
新機能をご紹介します。

※解説内容がオプションプログラムの説明である
場合があります。ご了承ください。



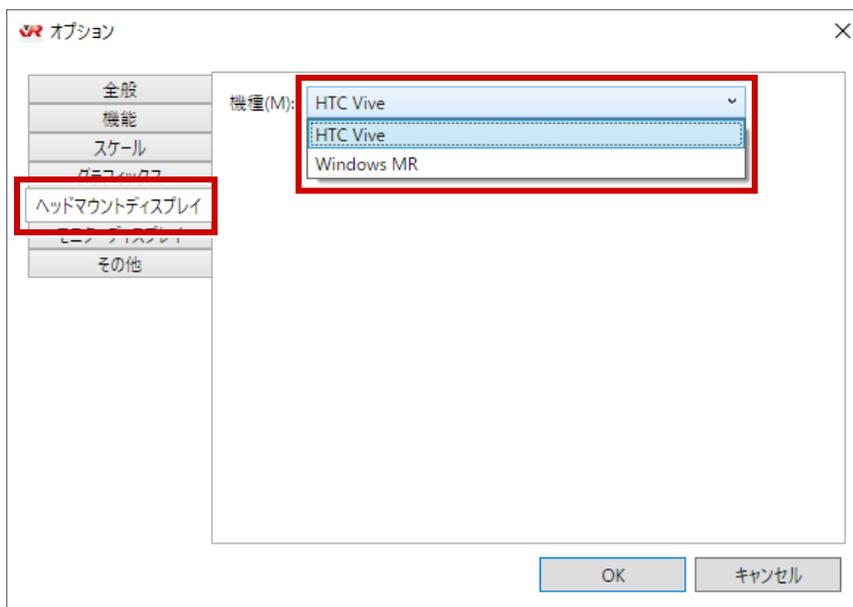
目次 TREND-CORE VR 新機能 (2018年10月)

1	ヘッドマウントディスプレイに「WindowsMR」を追加	1
2	「自由度の高い移動」を追加	2
3	座標を測量座標系で表示する機能を追加	3
4	「点群」を含むデータの閲覧に対応	4
5	「写真」を含むデータの閲覧に対応	5
6	複数のVRデータで構成する「リンクフォルダー」に対応	6
7	連続線の総距離を計測する機能を追加	7
8	鉛直方向を計測する機能を追加	7
9	計測結果表示をすべて削除する機能を追加	8
10	「全天球写真」の撮影に対応	8

1 ヘッドマウントディスプレイに「WindowsMR」を追加

ヘッドマウントディスプレイの機種に「WindowsMR」を追加しました。

- [ツール] - [オプション] コマンド

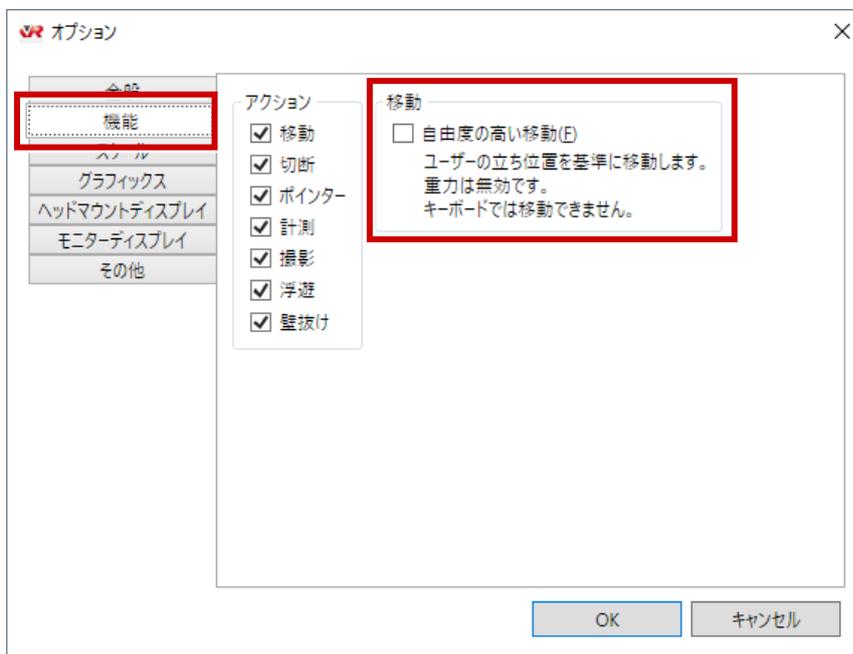


接続するヘッドマウントディスプレイの種類を設定します。

2 「自由度の高い移動」を追加

移動の設定に「自由度の高い移動」が追加されました。好きなところへ移動できます。

- [ツール] – [オプション] コマンド

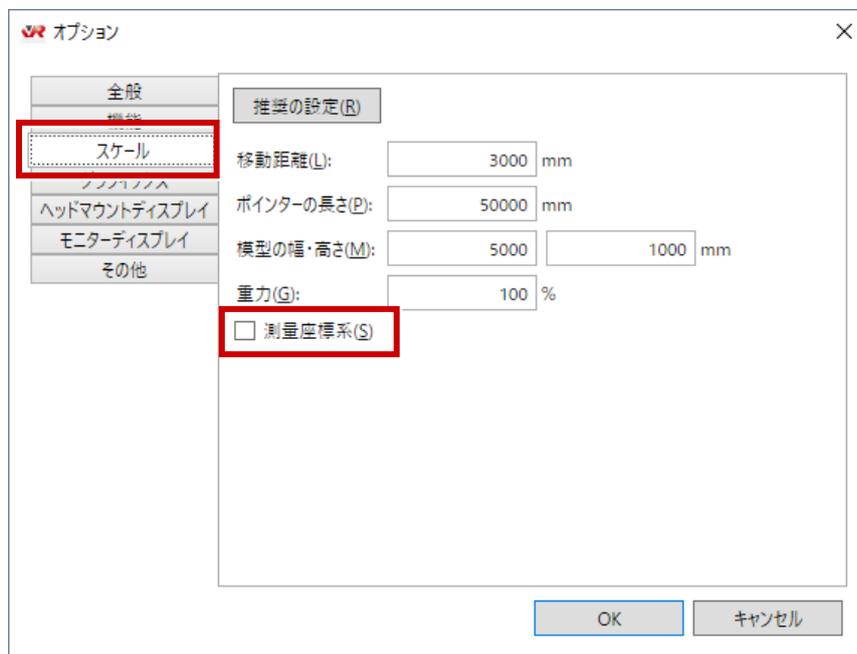


テレポートや釣り竿による移動のときに、ユーザーの立ち位置を基準にするときはONにします。
ルームスケールの中心を基準にするときはOFFにします。

3 座標を測量座標系で表示する機能を追加

計測の [座標] コマンドで計測する座標を、測量座標系で表示することが可能となりました。

- [ツール] - [オプション] コマンド



チェックをONにすると、計測の [座標] コマンドで計測する座標が測量座標系になります。

4 「点群」を含むデータの閲覧に対応

TREND-CORE で点群を読み込んで作成した VR データの閲覧に対応しました。

- TREND-COREの [プレゼン] タブー [VR] コマンドで、点群を含んだVRデータを出力



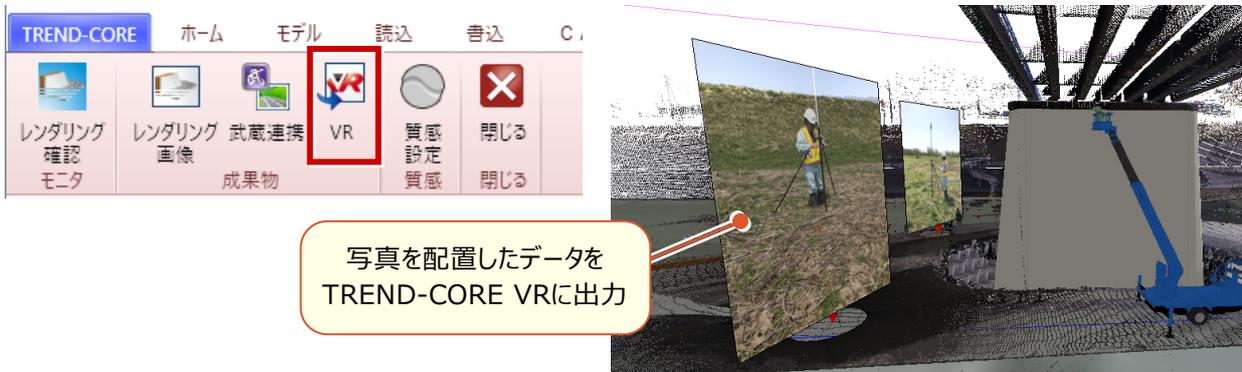
- TREND-CORE VRで閲覧



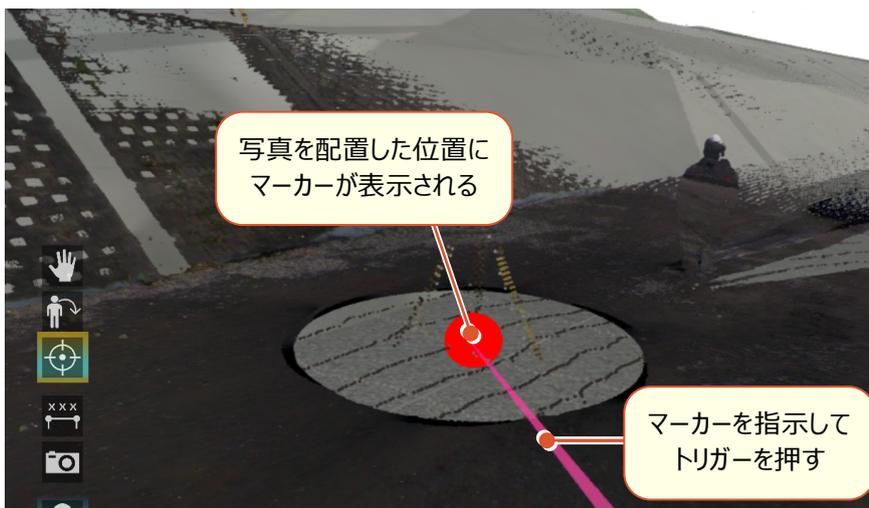
5 「写真」を含むデータの閲覧に対応

TREND-COREで写真（通常・全周囲）を配置して作成したVRデータの閲覧に対応しました。

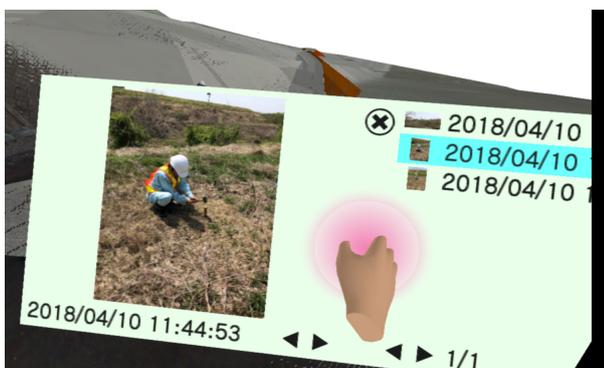
TREND-COREの [プレゼン] タブー [VR] コマンドで、写真を配置したVRデータを出力します。



TREND-CORE VRで、写真の配置位置のマーカを「ポインター」で指示すると、写真が表示されます。



「手」で写真をつかんで、任意の位置に移動できます。



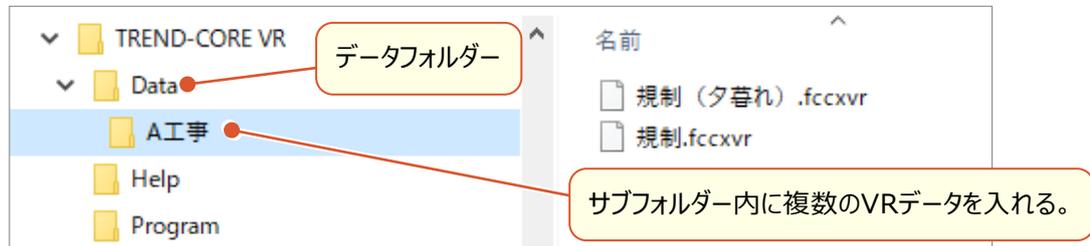
複数写真の場合は、写真の一覧を「ポインター」で指示して写真を切り替えることができます。



6 複数の VR データで構成する「リンクフォルダー」に対応

データフォルダー内にサブフォルダーを作成し、その中に複数のVRデータを入れると、データ一覧にリンクフォルダーが表示されます。（※表示されるアイコンも変わります。）

リンクフォルダーを選択すると、名前順で先頭のVRデータが開きます。



リンクフォルダー内のVRデータを開いている場合は、メニューに「リンク」が追加され、ここからリンクフォルダー内の他のVRデータに切り替えることができます。データ一覧に戻ることなく、同一視点のまま他のデータに変更が可能です。



【データ切り替え前】



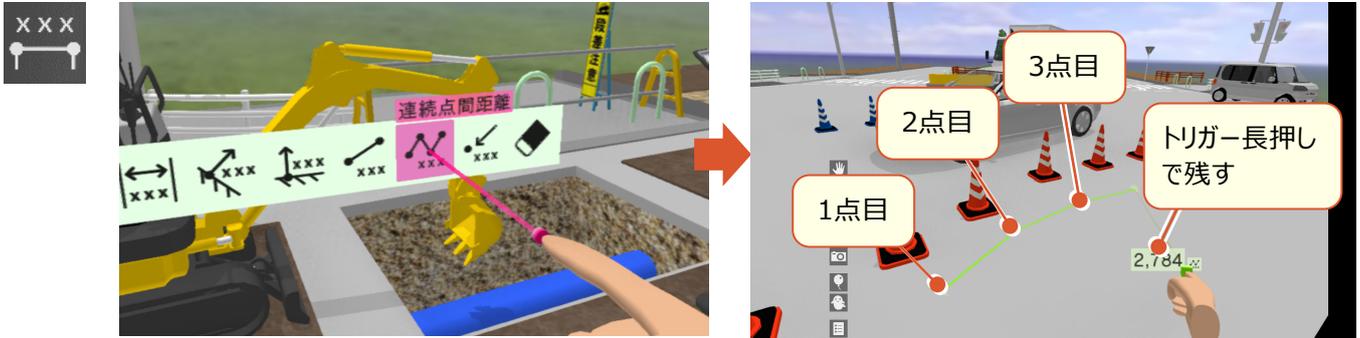
【データ切り替え後】



7 連続線の総距離を計測する機能を追加

計測に [連続点間距離] コマンドを追加しました。連続線の総距離を計測します。

- [計測] - [連続点間距離] コマンド



右手のポインターで1点目、2点目、3点目…と続けてトリガーを押すと、連続点間の距離が計測されます。最終点で右手のトリガーを長押しすると、計測した総距離が画面上に残ります。

8 鉛直方向を計測する機能を追加

計測に [鉛直距離] コマンドを追加しました。鉛直方向を計測します。

- [計測] - [鉛直距離] コマンド

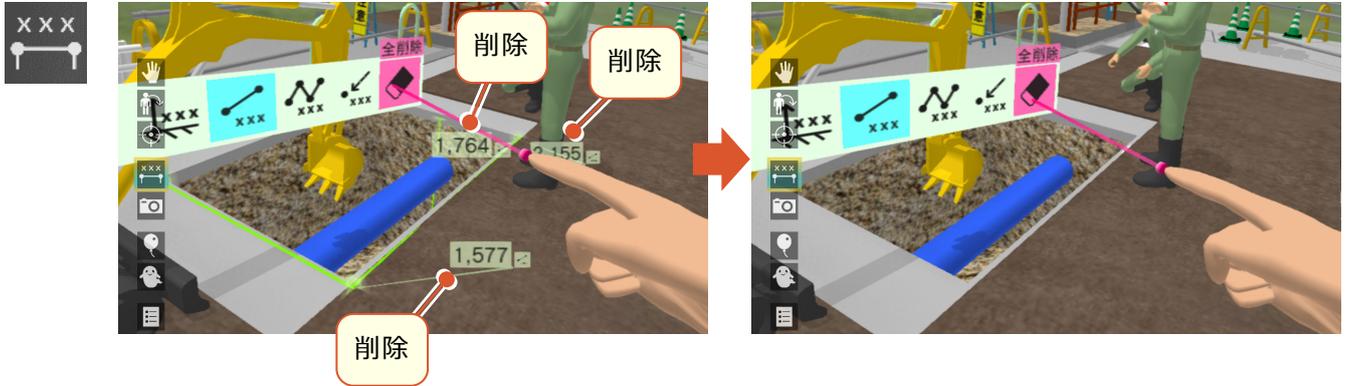


右手のポインターで指示した面から鉛直方向に延ばした線が他の対象物に当たるまでの距離が計測されます。右手のトリガーを押すと、計測距離が画面上に残ります。

9 計測結果表示をすべて削除する機能を追加

計測の各コマンドで画面上に残した計測結果をすべて削除します

- [計測] - [全削除] コマンド



10 「全天球写真」の撮影に対応

写真の撮影時に、「平面」と「全天球（パノラマ）」から選択して撮影します。

- [撮影] コマンド

